

第八章 宣伝活動

昭和二十四年八月一日、学燈編集部を改称し同時に秘書部の広告課を合併して宣伝部が新設されたことは、既に記したところである。この部の仕事の第一は、当社発行宣伝雑誌の企画・編集、配布、第二は、社外の新聞・雑誌等に掲載する広告ならびにカタログ、ポスター等宣伝用印刷物の作製・依頼、第三は、ショーウィンドーを初めとする店頭ディスプレイのデザイン企画・作製、第四は、商品及び商品に附するマークなどの企画・制作・管理（一部）、第五は、画廊の運営である。

「学燈」の編集は昭和二十六年復刊当時は八木佐吉がだったが、幾許もなく本庄桂輔が編集担任者となり編集長として今日に至っている。本庄桂輔は明治三十四年生まれ、立教大学英文科卒業後演劇研究のためフランスに留学、



本庄桂輔

帰国後は母校の教授としてフランス文学を担当した。昭和二十六年、内田魯庵、水木京太に続く三人目の専任編集者として当社に入社、爾来そのすぐれた編集手腕で「学燈」の評価を高めている。「演劇の鬼」、「サラ・ベルナルの一生」、「フランス近代劇史」などの著書がある。「学燈」の内容について集約すれば、一流の執筆者による随筆・書評を中心に、外国書などを通じて広く外国文化の姿を紹介する雑誌とい

うことになるうか。戦後の「学鑑」の大きな特徴としては長期の連載ものを掲載していることがあげられる。これら長期連載ものは完結後多く単行本にまとめられて他店で出版せられいずれも好評を博した。

他の定期刊行物である「マルゼンアナウンスメント」「丸善ライブラリー・ニュース」については既述しているから、ここでは触れない。唯、「丸善ライブラリー・ニュース」は、文具部が発行母体であったためライブラリアンのための情報誌として新しい図書館設備・用品の紹介には特に力を入れ、随時書籍・視聴覚教材・書務機械などの特集も加えて、図書館づくりに当って非常に参考になる記事が多いと好評である。

第二の宣伝広告には、新聞・雑誌を主要媒体として有効に活用している。新聞広告は、一般にその頁数の増減が広告のスペースの大小に影響し、当社の広告の内容・スペースも時代により移り変りがあった。新聞の頁数が二四頁の昭和二十年代初めには、記事中や突き出し広告を活用した。昭和二十五、六年ごろから新聞の頁数も多くなり、広告も次第に大型になった。そのような状況の中で、当社は昭和二十八年十一月から、全一段の洋書広告を毎週一回宛「朝日新聞」全国版に掲載した。これは洋書という知的刺激を広く与える意味で、当社の商品広告であると同時に、企業広告的な役割も果たしたといつてよい。然し前述のような理由から新聞広告もますます大型化し、昭和四十一年にはこの全一段広告もスペースを確保することが困難になった。もっとも当社では、これと並行して昭和三十七年秋から、新しい試みとして「本」という親しみ易い文字をアイキャッチャーに使用した半五段、半七段の広告を「日本経済新聞」に載せ始めていた。これは洋書・外国雑誌・和書・出版・リプリント等、本に関する全部門に携っている当社にふさわしい企業イメージ広告として、極めて斬新なものと好評で、「日経広告賞」を受け

<p>AMERICAN LIBRARY OF JAPANESE STUDIES 1000 University Avenue Easton, Pa. U.S.A. 東洋学研究所 〒180 東洋 1-10</p>	<p>AMERICAN LIBRARY OF JAPANESE STUDIES 1000 University Avenue Easton, Pa. U.S.A. 東洋学研究所 〒180 東洋 1-10</p>	<p>AMERICAN LIBRARY OF JAPANESE STUDIES 1000 University Avenue Easton, Pa. U.S.A. 東洋学研究所 〒180 東洋 1-10</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>
<p>AMERICAN LIBRARY OF JAPANESE STUDIES 1000 University Avenue Easton, Pa. U.S.A. 東洋学研究所 〒180 東洋 1-10</p>	<p>AMERICAN LIBRARY OF JAPANESE STUDIES 1000 University Avenue Easton, Pa. U.S.A. 東洋学研究所 〒180 東洋 1-10</p>	<p>AMERICAN LIBRARY OF JAPANESE STUDIES 1000 University Avenue Easton, Pa. U.S.A. 東洋学研究所 〒180 東洋 1-10</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>
<p>AMERICAN LIBRARY OF JAPANESE STUDIES 1000 University Avenue Easton, Pa. U.S.A. 東洋学研究所 〒180 東洋 1-10</p>	<p>AMERICAN LIBRARY OF JAPANESE STUDIES 1000 University Avenue Easton, Pa. U.S.A. 東洋学研究所 〒180 東洋 1-10</p>	<p>AMERICAN LIBRARY OF JAPANESE STUDIES 1000 University Avenue Easton, Pa. U.S.A. 東洋学研究所 〒180 東洋 1-10</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>
<p>AMERICAN LIBRARY OF JAPANESE STUDIES 1000 University Avenue Easton, Pa. U.S.A. 東洋学研究所 〒180 東洋 1-10</p>	<p>AMERICAN LIBRARY OF JAPANESE STUDIES 1000 University Avenue Easton, Pa. U.S.A. 東洋学研究所 〒180 東洋 1-10</p>	<p>AMERICAN LIBRARY OF JAPANESE STUDIES 1000 University Avenue Easton, Pa. U.S.A. 東洋学研究所 〒180 東洋 1-10</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>	<p>PHOTOGRAPHY ANNUAL 1957 丸善の洋書 PHOTOGRAPHY MARUZEN IMPROV</p>



本

Maruzen
Book News

アイデアのきいた Xmas Gift

あなたのくまごころが、く感謝の心くのこたえとなつてはねかえる贈り物……。

丸善の洋書・和書の中からお選びになる「本」には、先様のイメージをよく考えた、あなたのすぐれたアイデアがいつまでも生き生きと残ります。

童話・絵本・画集・写真集・海外複製画・趣味の本・辞書・ミニチュア辞典・語学レコードなど、いずれも知性に富むクリスマスギフトとしてうってつけのものばかりです。

- 鉛字まじり本
- Little Golden Book ¥ 140
- Hig Golden Book ¥ 450-900
- Giant Golden Book ¥ 1,000より
- ディズニ―童話(図表・全10巻) ¥ 5,000
- 絵本百科(平凡社・全5巻) ¥ 4,000
- 画集
- Chagall, Monet, Braque, etc. (スチキ版) 各 ¥ 2,900
- 写真集
- Photography Annual '64 ¥ 550
- U.S. Camera '64 ¥ 600
- 料理の本
- Cornusky; Cuisine et Vin de France (Larousse) ¥ 6,110
- Savoy Cocktail Book (Constable) ¥ 750
- ホーム・クッキング(講談社・全7巻) ¥ 3,380
- 料理資料(正社の文) ¥ 350

- ミニチュア辞典
- Lilliput Dictionary 各種 雷架付 ¥ 550より
- 辞書
- Concise Oxford Dictionary ¥ 1,200
- 現代各科大事典(全5冊)12月末日まで特価 ¥ 5,760
- 丸善のブロン1版
- The Home University Library (世界で唯一の
人が信頼している教育者シリーズ—政治・経済・法律
・法律・文学・歴史・宗教など各分野にわたる信頼
な内容—一版50巻) 新資料・全 ¥ 250
- 海外複製画
- リコルディ(伊)、ニューヨーク・クワイック・ソ
サエティ(米)、アブラム(米)、ノイエス(西独)
各社製 額付・小 ¥ 1,200より、大 ¥ 4,500より
- 語学レコード
- Audio Talking Books Series (49回録) ¥ 650より
誰でも出来る英語話(日本語アスター) ¥ 3,000



丸善

東京日本橋・電話271-2351
 横浜・V.S.各(全国各店上)

書籍新聞広告



ンキは当社の代表的商品として、不特定多数の消費者を対象とする全国向け商品であり、新聞広告も中央紙だけでなく地方紙にも手広く掲載した。とくに国電駅の電飾看板、湘南沿線その他への野立看板、都心地区での電柱広告等種々のブランド広告活動を盛んに行なった。また昭和三十年九月には、映画「僕はインキです」二巻を製作、各学校を巡回し、文部大臣の推薦映画となった。

事務機械広告

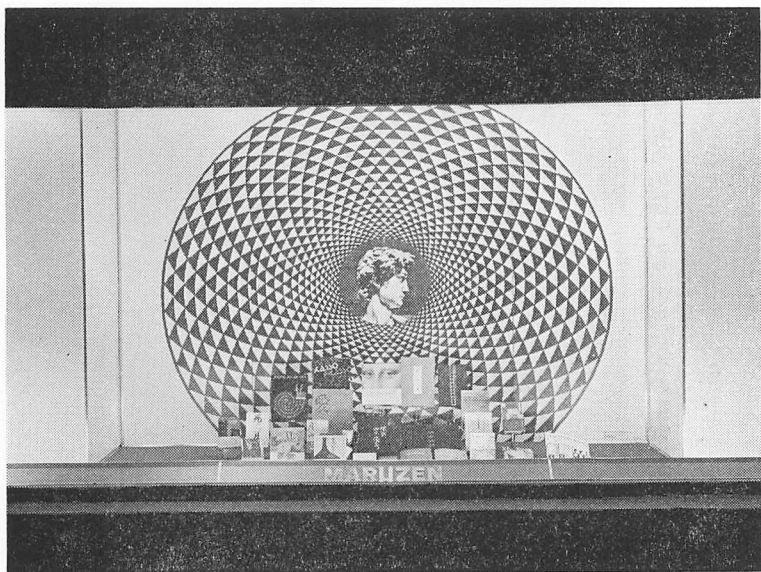
当社が、広告に電波媒体を使ったのは昭和二十七年四月からで、文化放送で週一度クラシック音楽番組（一五分間）を放送したのが最初であった。これは約半年間で了り、同年のうちにテレビ広告にも進出した。当時は、テレビ局の開局間もない頃で、半年間ではあったが、日本テレビ、ラジオ東京テレビ（現TBS）に随時スポットによる広告を行った。続いてラジオ東京テレビにも、ウィークデーに一分間のスポットを帯でとり、書籍ではO.E.D. (The Oxford English Dictionary) 洋品ではバーバリーコート、セラフィックコート、ウエザーオールコート、文具では



オバQのサインペン

アテナインキ等、当社の代表的商品のスライドを効果的に組合せたもの、「インキの出来るまで」の行程を一分間に収めたフィルムなどを流した。このような電波媒体への積極的な進出は、将来テレビ、ラジオの普及を予測してその先鞭をつける意味ある試みであったと思う。

昭和三十年代に入って、我が国における事務の合理化・機械化が急速に進むとともに、当社取扱いの事務機械が販売商品の中ですます重要性を帯びるに至った。就中、日本における総代理店であったローヤル、モンロー両社製品及び丸善精機工業のタイムレコーダ、計算機、加算機、会計機のサービスセールの一大キャンペーンを行い、「朝日」「毎日」「読売」を始めとする全国の有力紙三〇紙及び雑誌に広告を載せた。また昭和三十九年には漸く電子計算機登場の機運に促がされ、卓上電子計算機ともいべき記憶つきのモンロー計算機の普及宣伝を行った。このときの販売予定台数五〇〇台は、締切り一ヵ月前に完売し得たが、このことは、この宣伝が販売促進に大きく貢献したことを物語っている。昭和四十年代に入ると、事務機械はエレクトロニクスの分野で長足の発展をとげ、コンピュータがその花形として脚光を浴び、次第に大型化するに至った。このため扱う商品も、従来のエージェント・メーカーとしての立場から代理店及び販

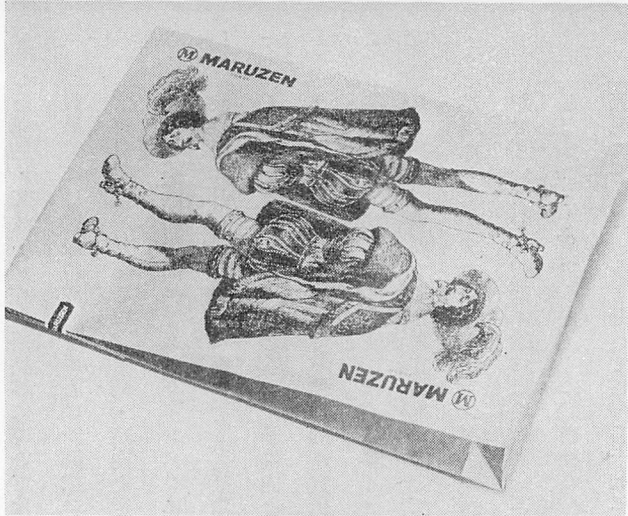


本店ショーウィンドー（「世界の装飾シリーズ」）

売店としての立場が強くなり、このために宣伝の媒体も新聞・雑誌広告はもとより、ダイレクトメール、カタログ等と多様化してきた。

洋品・文具・ゴルフ用品等については、特に中元・歳暮時には舶来の洋品を中心に新聞広告を行い、また常時専門紙・雑誌等に、季節・時期を選んで広告してきた。全国向け商品であるサインペンについては、一般筆記具としては勿論、「オバケのQ太郎」「トッポジージョ」などを軸にあしらった子供向きの新しいキャラクター商品も開発して、積極的に宣伝を行った。

当社のショーウィンドーは、企業イメージの表現として極めて重要である。宣伝部においても、本店の日本橋通りに面するショーウィンドーの展示には、特に意を用いている。基本的には格調高いユニークな装飾となることを期するとともに、当社の総合イメージの表現に努めている。そして昭和四十七年以後は、年間



包装紙と紙袋

テーマ「世界の装飾」「ヨーロッパの王宮庭園」等を組んで、ウィンドーのバックに写真を主体としたパネルを使用している。これと展示商品との組合せ、配置にも当社らしい好古作新の感じがあると好評である。

現在使用中の包装紙は、宣伝部のデザインによるもので、昭和二十八年以降現在まで変ることなく使用している

が、当社の役割を象徴的に示すものとして好評である。この包装紙はスイスの「グラフィス」、イギリスの「ペンローズ」など、外国の有名誌に紹介されたこともある。また昭和三十七年から洋品売場で使用されている紙袋もなかなか好評である。

本店三階の画廊の運営も昭和三十三年店頭販売部廃止によって宣伝部に、美術展の企画運営及貸画廊業務の一切が移管された。当時の当社企画の展覧会としては農会・葬会の両洋画展、そのほか書籍関係の展示・即売会が行われた。これらについては、その折々に触れてきたのでここでは略するが、昭和二十二年、貸画廊開設当時は画廊が皆無と聞いていい時代であったので、有名作家の作品展示は作家側、美術愛好家側にもよろこばれ好評であった。その頃、当社の画廊が果たした役割は、顧客誘致の意味から大きかった。

以上のほか、宣伝部ではパブリシティ活動を昭和三十年代から積極的に行ってきた。当社の業務は文化的に大きな意義のあることもあって、新聞・テレビ・週刊誌などのマス媒体に取上げられる機会も多い。「せかいの絵本展 示即売会」などその好例で、昭和四十一年、当時の人気番組「木島則夫モーニングショー」に、この催しを取り上げられた時は、たまたま画面に出た「猫の本」に注文が殺到し、開店一時間で売り切れるなど、テレビの威力をまざまざと見せつけるものがあった。その後もうこうした催事・商品紹介などは、様々の宣伝媒体で屢々取り上げられてきており、パブリシティ活動は、当社のイメージアップと営業活動に大きく寄与してきた。